

@cosmeコンシューマーレポート「2008年アンチエイジングレポート」のご案内

この度、肌老化に対する意識、およびアンチエイジング効果のあるスキンケアアイテムの使用実態に関する調査レポート「@cosmeコンシューマーレポート 2008年アンチエイジングレポート」を作成いたしましたので、ご案内いたします。
本レポートは、株式会社アイスタイルが運営する美容情報専門クチコミサイト「@cosme(アットコスメ) <http://www.cosme.net/>」の会員を対象にインターネットリサーチを実施した結果をまとめたものとなります。

レポート詳細

発行：株式会社アイスタイル
発刊日：2008年12月
版型：A4版・43ページ
価格：¥150,000-(PDFファイル)

調査概要

調査手法：インターネットリサーチ
調査対象者：20歳以上の@cosmeプロデュースメンバー 900名 (年代により6セル×150名設定)
20～24歳 25～29歳 30～34歳 35～39歳 40～49歳 50歳以上
調査時期：2008年9月1日(月)～2008年9月8日(月)
一部2005年12月13日(火)～2005年12月18日(日)の調査結果と比較有

調査内容

■肌の老化意識

- 肌の老化への意識
- 肌の老化を初めて意識した年齢
- 肌の老化を初めて感じた肌の状態
- 肌の老化を初めて感じたきっかけ
- 現在感じている肌の老化
- 見られたい「肌年齢」

■アンチエイジング化粧品の使用状況

- 「アンチエイジング効果のあるスキンケアアイテム」使用経験
- 初めて使用した「アンチエイジング効果のあるスキンケアアイテム」
- 老化を防止したい顔の部位
- スキンケアアイテムを選択する際の重視点
- 「アンチエイジング効果のあるスキンケアアイテム」に期待する効果
- 「アンチエイジング効果のあるスキンケア化粧品」の効果実感
- 「アンチエイジング効果のあるスキンケア化粧品」の使用満足度
- 「アンチエイジング効果のあるスキンケア化粧品」の使用満足度理由
- 「アンチエイジング効果のあるスキンケア化粧品」魅力的な成分
- 「アンチエイジング」で思い浮かべるブランド
- 「アンチエイジング効果のあるスキンケア化粧品」にかけられる金額

■肌以外の老化意識

- 肌が老化する原因
- アンチエイジングのために行っていること
- 肌以外に老化を感じる場所

@cosmeリサーチサービスのご紹介

株式会社アイスタイルでは、約110万人の@cosmeメンバーのうち、「よりよい化粧品やサービスの開発」に協力していただける「プロデュースメンバー」(約40万人)を対象にリサーチを行う、リサーチサービスを展開しています。
化粧品に対しアクティブなメンバーであるため、美容関係のことについて、内容の濃い意見を聞くことができ、他社モニターでは集めることのできないような、出現率の低いケースでもモニターを確保することが可能です。

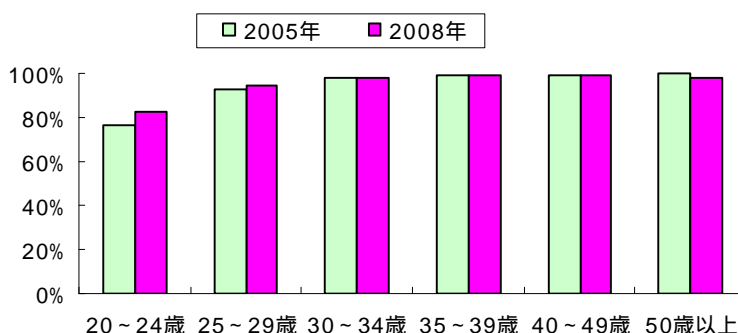
■レポート、またはリサーチサービスに関するお問い合わせ先
株式会社アイスタイル <http://www.istyle.co.jp/>
03-5785-8904(TEL) 03-5785-8901(FAX)
リサーチプランナー 田原 茜 / 西原 羽衣子 research@istyle.co.jp

@cosmeコンシューマーレポート
「2008年アンチエイジングレポート」

■@cosmeメンバーのほぼ全員が「肌の老化」を感じたことがある

➢年代が高くなるほど肌の老化を意識したことがある人は多くなり、また2005年調査時よりも老化意識の若年化の傾向が見られる。初めて老化に気付くきっかけは、他者からの指摘や感覚的なことではなく、「目に見えるもの」である。30歳未満は毛穴の広がりや目立ち、30代は小ジワ、40歳以上はたるみに気付くことがエイジングへの入り口となっているようである。

肌の老化を感じたことがある



■@cosmeメンバーの50%以上が現在感じている肌の老化現象として「ハリ・たるみ」「毛穴の開き」「ほうれい線・シワ」「シミ・そばかす」を挙げている

➢年代が高くなるほど認識する肌の老化現象の数は増える。肌の老化とは、30歳未満にとっては「毛穴の広がり・目立ち」であり、35歳以上にとっては「肌のハリ・弾力の低下、たるみ」であることが多いようだ。30～34歳は毛穴もハリ・たるみも感じている悩める世代といえよう。

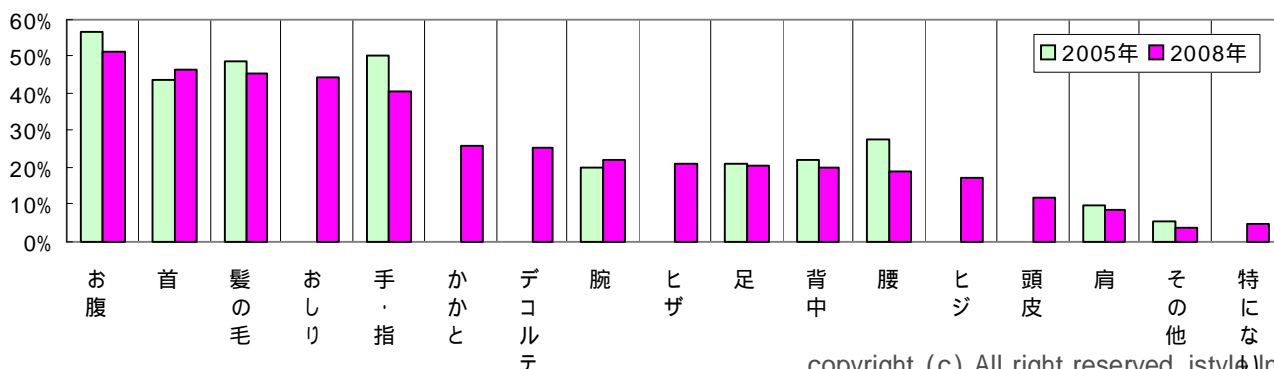
■老化の原因は、紫外線と生活習慣の乱れ。行われているエイジングケアは、日焼け対策と生活習慣の是正。

➢原因に則した対策がとられている様子が窺える。「エステに行く」といった直接的対応よりも日々の地道な努力によるものが多く見られ、アンチエイジングという意識が生活全般に影響を及ぼしていることが考えられる。

■40歳を過ぎると、お腹と手・指に年が現れる

➢からだの老化は、お肌の老化と同等の高い割合で感じられているようである。

顔以外で老化を感じる部位



@cosmeコンシューマーレポート
「2008年アンチエイジングレポート」

■@cosmeメンバーのアンチエイジング化粧品使用経験は7割

➤年代が高くなるほどアンチエイジング化粧品の使用経験は多くなるが、30歳未満においては2005年調査時よりも未経験率が増加。老化意識には若年化が見られたが、アンチエイジング化粧品使用には繋がっていないのだろうか。

■アンチエイジング化粧品へのエントリーアイテムは美容液

➤初めて使用したアンチエイジング化粧品としても、使用したことのあるアンチエイジング化粧品としても美容液が多い。

■アンチエイジング化粧品の使用量は増加の様子

➤2005年調査時よりも使用経験アイテム数は増加傾向、特に40代は美容液のみならずクリームやアイクリームと、複数アイテムの積極的な使用の様子が窺える。使用部位からもパーツケアから全顔ケアへの変化による使用量の増加が見られる。

■アンチエイジング化粧品には、価格より効果重視

➤アンチエイジング化粧品の選択には、配合成分、メーカー・ブランド力、肌への刺激、革新性、価格といった多角的な視点から効果を検証し、かつ実際に自分の肌で試してみるといった、シビアなまでの選択眼が窺える。

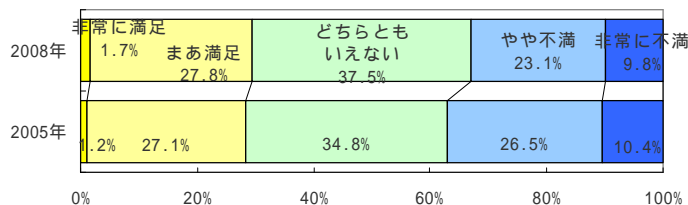
■アンチエイジング化粧品に求められる効果は、全年代的にたるみケア

➤アンチエイジング化粧品へのNO.1ニーズは2005年の「シワ・小ジワケア」から「たるみケア」へ、つまりここでもパーツケアから全顔ケアへの変化が見られる。

■アンチエイジング化粧品への満足度は「悪くはないが良くもない」

➤価格が即効性や効果の高さへの期待値を押し上げ、評価を厳しくしているようだ。

アンチエイジング効果のある化粧品の使用満足度



■アンチエイジング化粧品への支出意向が最も高い40代

➤化粧品の付加価値としてのアンチエイジング効果は支出許容金額を上げる。年齢の増加とともに金額も増加するが、特に40代においてはアンチエイジング美容液、クリーム、さらにはアンチエイジング効果がないクリームに対しても投資意向が高い。